

三昼夜不眠不休 炎と対峙する古来からの製法が 玉鋼を生む

鳥上地区にある日刀保たたらにおいて、日本古来の製法である「たたら吹き製鉄」が一月六日の本床火入れの事前作業に始まり、一月二十三日から二月九日までの期間に三代（三回）の操業を行いました。

「代目（初回）」の初日となる一月二十三日には火入れ式が行われ、（公財）日本美術刀剣保存協会、（株）日立金属安来製作所、伊勢神宮、靖国神社など関係者約四十人が操業の安全と成功を祈願しました。



▲木原村下と養成員の皆さん

行の三上孝徳さんにより、初種（砂鉄）が四kgずつ装入されました。その後、三十分毎に量を増やしながら装入され、三昼夜通して砂鉄十ト、木炭十二トが不眠不休で炉に入れられます。

そして、四日目の早朝、炉を壊して最初の鑄（鉄の塊）を取り出されます。

【三代目の操業】

二月六日から始まった三代目（三回目）の操業は、二月九日の早朝六時にクライマックスを迎えました。

関係者約百名が見守る中、片側から少しずつ炉が崩されていきました。片づけられた炉の破片は溶岩のように火花



▲三昼夜燃え続けた炉を壊す

を飛ばしながら光り、凍てついた外の空気を一瞬で暖めま

最後に村下養成員の皆さんが燃え残った木炭を片付ける

と、炉底だった場所に赤く輝く玉鋼の鉄の塊「鑄」が現れました。

木原村下は「今回も満足できる鑄ができ安堵した。今後これを七種類の玉鋼に精製し、全国の刀匠などに供給する。日刀保たたらは、原料確保から日本刀作成までを一貫してできる体制があること。今後その利点を活かしながら精進し、後継者の育成、伝統技術の保存に全力を注ぎたい」と次の目標を見据えています。



▲現れた鑄を整える木原村下

第2回 尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会開催

一月一七日、第二回尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会が井上町長、速水雄一雲南市長をはじめ、八人の委員が出席して行われました。

今回は、第一回委員会委員意見への対応状況、尾原ダム水源地域ビジョンの基本理念・地域的目標像・基本方針の報告、また、第一回委員会以降の取り組みについての報告などがありました。



分科会などで提案された地域活性化と環境保全を目的とする様々なプロジェクトについて、尾原ダム水源地域ビジョン策定委員会の報告に対し、島根大学の作野広和准教授からは「尾原ダム周辺の人たちを助けるためのボランティアを学生にお願いするのはなく、尾原ダム周辺地域の豊かな資源を『学びの場』として提供するというくらいの気持ちを持つてほしい」と発言がありました。また、井上町長からも「下流域の水環境にとっても上流にある尾原ダムは重要な施設である。よって、より広域での情報発信と理解・協力を求める必要があるのではないか」といった意見が述べられました。

目標像の実現に向け、今後も継続した取り組みが期待されます。

坪倉修吉氏（東大阪市在住） 奥出雲町名誉町民に

一月三十日、町長の諮問を受け開かれた奥出雲町名誉町民選挙審議会にて審議され、二月六日の臨時議会での同意をもって、坪倉修吉氏に第三号となる奥出雲町名誉町民の称号が贈られることとなりました。

坪倉氏は昭和二十八年に大阪大学医学部を卒業後、八川地区の坪倉医院にて当時の町民への献身的診療などで地域医療の発展に貢献されました。昭和三十七年に東大阪市に転居された後も奥出雲のことを心にとめていただき、事あ

ることに支援いただきました。平成元年に関西よこた会を設立、会長としてふるさと出身者との交流にご尽力され、平成三年には、当時の横田町役場新庁舎完成記念として現在も飾られているモニユメント「おろちの舞」を寄贈、平成六年には株式会社アメリテイよこたの設立にご尽力いただきました。

また、阪神淡路大震災の際は、奥出雲町出身者のための相談窓口を開設するなど、ふるさとを離れた人々のよりどころとなられ、平成二十年に



発足した関西奥出雲会では顧問に就任、現在も変わらずふるさとの発展に寄与頂いています。

鐘撞芳夫さん（八代） 三十年の功績に表彰

公益社団法人全国スポーツ推進委員連合より平成二十四年度三十年勤続スポーツ推進委員表彰があり、布勢地区の鐘撞芳夫さんが受賞されました。これは、スポーツ推進委員（旧体育指導委員）として勤続三十年を迎える方に贈られるもので、鐘撞さんは昭和五十八年に旧仁多町体育指導委員に就任以来、永年にわたり町内のスポーツ普及に尽力されました。

今回の表彰に対して鐘撞さんは、「三十年を振り返ると、自分でも長い間よくやったと思う。何より、ふるさとであるこの奥出雲町でいろいろなさスポーツが盛んになってくれたことがとても嬉しい。これからも何らかの形でスポーツに関わっていきたい」と喜びを語りました。



亀嵩小学校 鳥上わくわくプール

第二十回しまね景観賞の授賞式が二月五日、松江くびきメッセにて行われました。

この賞は、県民の景観づくりに対する意識啓発を図るため、魅力ある鳥根の景観づくりに貢献している建物等を選び、事業者、設計者及び施行者を表彰しているものです。今回奥出雲町からは「公共建築物部門・奨励賞」に亀嵩小学校校舎が、「まち・みどり・活動部門・奨励賞」に鳥上わくわくプールを含む「斐伊川源流部の自然を活かした水辺空間」が選ばれました。亀嵩小学校校舎は平成二十三年に竣工し、地元の木材を



▲亀嵩小学校校舎

しまね景観賞受賞

ふんだんに使ったためもりのあるつくりが特徴です。先般平成二十四年度優良PTA文部科学大臣表彰も受賞し、地域をあげた魅力ある学校づくりに積極的に取り組んでいます。

また、鳥上わくわくプールは、温泉水を利用したプールと、ヤマメやオオサンショウウオなどが生息する斐伊川源流の清流で安全に水遊びができる場所として、親子連れに人気の施設です。

今回の受賞は、その機能だけでなく、景観形成の中心的役割を果たすこれら施設の存在感を示すものとなりました。



▲鳥上わくわくプール周辺